

## 仕入先から商品を仕入れた場合は？

慣れないうちは取引があったとき、どんな勘定科目で処理すればよいのか、悩むケースもあるでしょう。そうした勘定科目の取扱いについて、新人さんと一緒に、事例をもとに学んでいきましょう。



**先輩：**営業から、期末在庫の残高の連絡はあったかな？

**新人さん：**あいにく、展示会と重なってしまって、棚卸しが終わっていないとのことでした。

**先輩：**棚卸しは地味な作業だけど、決算処理にはなくてはならない作業だからね。もう一度、催促しておいてくれないかな。

**新人さん：**はい、わかりました。ところで、棚卸資産と在庫って同じものなんですか？

**先輩：**うん、一般的には在庫というけれど、会計上は棚卸資産というんだ。棚卸資産にもいろいろあって、仕入先から仕入れた品物は「商品」という勘定科目で表示されるよ。

### ○解説

「商品」とは、物品を販売する会社が、販売する目的

で仕入先などから仕入れた物品を処理する勘定科目です。このため、業種によって様々な物品が「商品」として処理されます。たとえば土地は、通常、固定資産ですが、不動産会社が販売目的のために所有している土地は「商品（販売用不動産）」の範囲に含まれます。

商品売買の会計処理として、「商品」の勘定科目を使用する方法もありますが、実務では一般的に、仕入、売上、繰越商品の3つの勘定科目で仕訳をする三分法を使います。三分法では、仕入時、販売時、決算時には「商品」の勘定科目は使用しませんが、期末の繰越商品分を貸借対照表上で表示する際には「商品」を使います。

商品を仕入れた場合の取得価額には、商品の購入対価のほか、購入のための費用や販売のために直接要した費用（付随費用）を含めます。ただし、税務上、付随費用が少額（購入対価のおおむね3%以内）である場合、取得原価に算入しないことができます。



### ケース1 商品を仕入れた場合

仕入先のA社から販売用の物品XYZを10,000,000円（税別）で仕入れて、代金は普通預金口座から振り込んだ。

<b>【借方】</b> 仕入	10,000,000	<b>【貸方】</b> 普通預金	11,000,000
仮払消費税等	1,000,000		

### ケース2 商品を販売した場合

商品XYZの一部を得意先のB社に24,000,000円（税別）で販売し、代金が普通預金口座に振り込まれた。

<b>【借方】</b> 普通預金	26,400,000	<b>【貸方】</b> 売上	24,000,000
		仮受消費税等	2,400,000

### ケース3 決算時に売上原価を計算する場合

商品XYZの期首在庫は5,000,000円、期末在庫は3,000,000円だった。

<b>【借方】</b> 仕入	5,000,000	<b>【貸方】</b> 繰越商品	5,000,000
<b>【借方】</b> 繰越商品	3,000,000	<b>【貸方】</b> 仕入	3,000,000

∴売上原価＝期首商品棚卸高5,000,000円＋当期商品仕入高10,000,000円－期末商品棚卸高3,000,000円＝12,000,000円